

invested in insights.

eastspring
investments

A Prudential plc (UK) company



移行期のリーダーを見極める： 変革を牽引する企業を捉える眼

**Joanne Khew**ESGスペシャリスト
イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）**Fabian Graimann**ポートフォリオ・マネジャー、グロース株式チーム
イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）

ポイント

- ▶ 気候トランジション・リーダーは、将来を見据えたポートフォリオにおいて戦略的に重要な存在です。彼らは地球規模の気候目標の達成に貢献するだけでなく、投資家にとって長期的な価値創出の可能性をも秘めています。
- ▶ 気候変動対策を主導する企業は、移行期における新たな収益機会を捉えると同時に、自社の事業活動に即した実践的な形で炭素排出削減に取り組んでいます。これには、気候変動の緩和に資するソリューションを提供する企業だけでなく、適応を支援する技術やサービスを展開する企業も含まれます。
- ▶ こうしたトランジション・リーダーを見極める際には、「トランジション・ウォッシング（見せかけの移行）」に対する警戒が不可欠です。また、新興国市場や排出量の多い特定セクターに対する無意識のバイアスにも注意を払う必要があります。真のリーダーを見極めるには、定量的な評価と定性的な洞察の両面からのアプローチが求められます。

本稿では、気候政策や技術が急速に進化する中、標準化された情報開示が未整備な状況において、投資家が将来の「気候トランジション・リーダー」をどのように見極めるべきかを考察します。

気候変動対策に貢献するだけでなく、トランジション・リーダーは事業面でも多くのメリットを享受しています。新興国企業を対象とした最近の調査では、回答企業の69%が「サステナビリティが自社の中核事業を強化した」と回答しており、特にアジア企業ではその割合が81%と最も高くなっています（次頁、図表1参照）。また、64%の企業が「サステナビリティは業界におけるリーダーシップを示す機会であり、評判や信頼性の向上につながる」と認識しています（次頁、図表2参照）。

このように、トランジション・リーダーをポートフォリオに組み入れることは、長期的な投資成果の向上につながる可能性があります。

英国プルデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。

最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているプルデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるプルデンシャル・アシュランス社とは関係がありません。

※ご留意いただきたい事項を最終ページに記載しております。

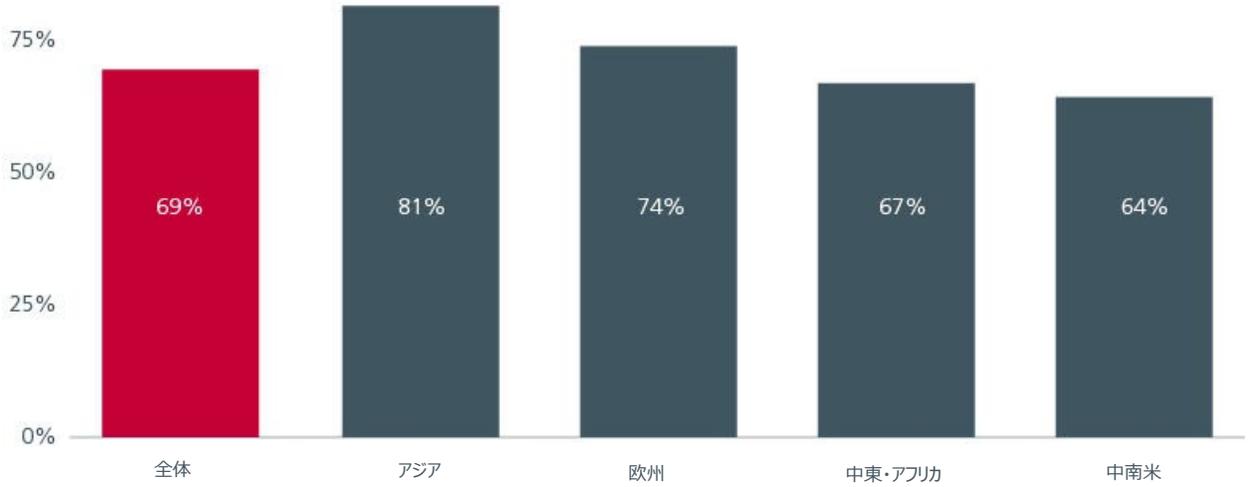
イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号／加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

251022(07)

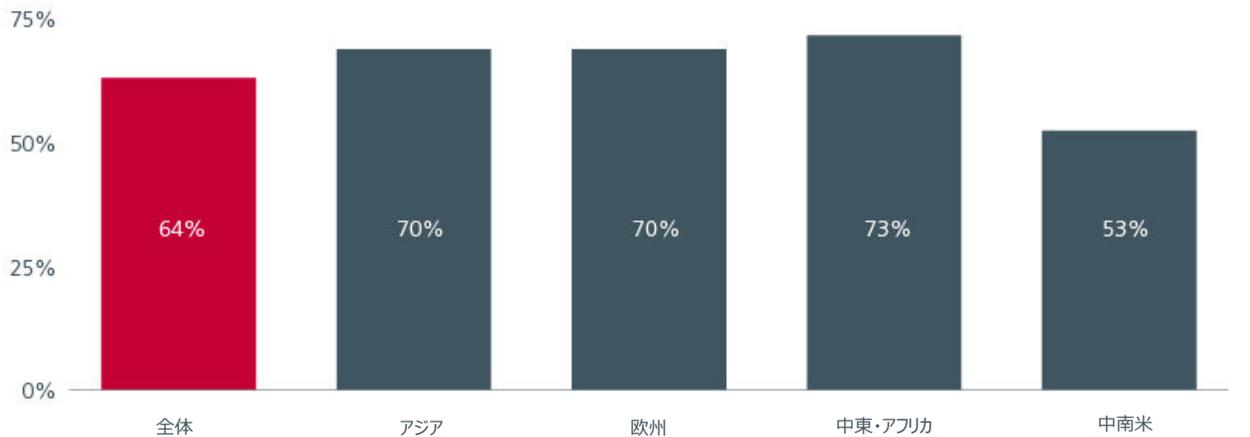
invested in insights.

図表1：「サステナビリティが中核事業を強化する」と感じている回答者の割合



出所：BofAグローバル・リサーチ「新興国発行体におけるサステナビリティ調査結果」（2025年6月）に基づき、イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。

図表2：「サステナビリティが業界におけるリーダーシップの向上に寄与する」と考える回答者の割合



出所：BofAグローバル・リサーチ「新興国発行体におけるサステナビリティ調査結果」（2025年6月）に基づき、イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。

リーダーの証

気候トランジション・リーダーとは何か？それは、移行期の収益機会を巧みに捉える企業（より良いことをする企業）でしょうか？それとも、炭素排出削減への真摯なコミットメントを強く示す企業（悪いことを減らす企業）でしょうか？

焦点を当てるべきは、気候変動の緩和に資するソリューション（クリーンエネルギーや炭素回収など）を開発する企業なのか、それとも気候変動への適応を支援する企業（水資源管理や強靱なインフラなど）なのでしょうか？

私たちは、「すべてが該当する」と考えます。企業が属する業種や市場環境に応じて、どの側面に重きを置くかは異なります。

重要なのは、文脈に即した視点を持つことです。そうすることで、市場機会の解決に取り組みながら、気候変動下の世界において自社製品のインパクトを発揮し、成長を実現する企業を見極めることが可能になります。投資家にとっての課題は、こうした企業を体系的かつ網羅的に、そして一貫性のある手法で見極めることです。

invested in insights.

特に新興国市場では、地域ごとに異なる気候関連の分類体系、経済や産業の発展段階の違い、そして利用可能なデータの量と質のばらつきがあるため、この作業は一層困難になります。トランジション・リーダーを見極める際には、トランジション・ウォッシングへの警戒が不可欠です。これは、企業が実際以上に持続可能な事業モデルへ移行しているような印象を与える主張・行動・情報の省略などを指します。

また、新興国市場や排出量の多い特定セクターに対する無意識のバイアスにも注意が必要です。特に、公開されたネットゼロ宣言や認証済みのコミットメントを過度に重視すると、データの可用性、情報開示の成熟度の違い、各国の「国別決定貢献（NDC）」の考慮などにより、評価が偏る可能性があります。

私たちは、こうした要素の進展を評価しつつも、投資サイクルにおける景気変動を踏まえた柔軟な視点を推奨します。言い換えれば、これらの指標を初期段階で制約条件として捉えるのではなく、企業レベルでの具体的な行動、マクロ環境の変化、気候移行に向けたキャッシュフロー管理と並行して、時間をかけて進化する文脈の中で評価すべきです。

勝者を見極めるためのスクリーニング

2024年9月、当社グループは、Climate Bonds Initiativeの承認を受けた投資フレームワークを発表しました。このフレームワークは、資産保有者が気候トランジション投資を進める際の指針となるものです。

私たちは、企業の取り組みを評価する際に、努力の度

合い・成果・マクロ環境へのポジティブなエクスポージャーという3つの観点から、移行機会と排出削減の両面を測定することが有効だと考えています（図表3参照）。本フレームワークでは、気候変動による生活の質の低下がほぼ確実に起こることを前提に、緩和策だけでなく適応策にも関与する企業を対象としています。適応策は、気候移行における社会的要素を包含する上で不可欠であり、実際に投資可能な機会を提供します。

移行機会を評価する際には、企業の製品開発から販売までのサイクル全体を対象とし、特許、グリーンおよび移行関連の設備投資（CAPEX）、グリーン収益活動などの指標を用いて分析します。高品質な特許は将来の移行関連事業の成長を示す指標となり得ますが、すべての特許が商業化されるわけではないため、単独のスクリーニング指標としてはリスクがあります。一方で、収益のみに注目する手法は将来性に欠けます。また、グリーンCAPEXだけに焦点を当てると、成長投資ではなく保守投資が必要なエネルギー効率改善分野などが見落とされる可能性があります。そのため、私たちは企業をバリューチェーン全体で総合的に評価することを重視しています。

外部のESGおよび市場データプロバイダーからの独自データに加え、社内指標も活用し、前述の構成要素に基づいて企業にスコアを付与しています。これらの定量スコアは、各企業の移行進捗を差別化するうえで有効であり、今後の漸進的な変化に焦点を当てています。

このスクリーニング手法により、投資ユニバースをより厳選されたものにするのが可能になります。

図表3：企業の移行活動の評価

評価指標	移行機会 (気候変動の緩和・適応に向けたソリューション)	排出削減への取り組み
インプット (努力の度合い)	<ul style="list-style-type: none"> 研究開発費／売上高比率およびその推移 グリーンおよび移行関連の設備投資（CAPEX）の全体に占める割合 	<ul style="list-style-type: none"> クリーンテクノロジーの設備能力の推移 省エネルギー強化策の有無
アウトプット (成果)	<ul style="list-style-type: none"> 低炭素ソリューションに関する高品質な特許 低炭素技術・活動による移行関連収益 	<ul style="list-style-type: none"> 加重平均炭素強度および／または絶対排出量の推移 取締役会の監督を伴う企業全体の気候戦略 各国の国別決定貢献（NDC）と少なくとも整合する公的な気候コミットメントの有無
マクロ環境への ポジティブな エクスポージャー	<ul style="list-style-type: none"> グリーンおよび移行関連ソリューションに対する政策インセンティブがある地域への市場エクスポージャー 	<ul style="list-style-type: none"> 炭素削減活動に対する政策インセンティブがある地域へのエクスポージャー

出所：「Framework for investing in climate transition in the capital markets」および「Eastspring Just Transition Portfolio」（2024年9月）に基づき、イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。

invested in insights.

戦略的な組み入れ

サステナビリティ・トランジションの最前線に立つ企業は、地球規模の気候目標に貢献するだけでなく、長期的な価値を創出する存在として、将来志向のポートフォリオにおける戦略的な組み入れ先となります。

近年の地政学的緊張や戦略的対立の激化により、気候関連の資金フローは減速しており、特に新興国における緩和策への影響が顕著です。このような状況下では、投資家の影響力がこれまで以上に重要となります。前述の調査では、新興国企業の62%が「投資家からの要請がサステナビリティへの取り組みの主要な推進力である」と回答しています。

これは、資産保有者や投資家が、トランジション・リーダーを見極めるだけでなく、気候移行そのものを形成する役割を担っていることを示しています。信頼性が高く、インパクトのある気候戦略を実行している企業に資本を振り向けることで、投資家は低炭素経済への移行を加速させると同時に、長期的に優れた成果を享受する可能性があります。

<当資料に関してご留意いただきたい事項>

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）が作成した資料をもとに、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業や業種・テーマに言及することがありますが、当該企業の株式／債券や業種・テーマについて組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。○抄訳には正確性を期していますが、必ずしもその完全性を担保するものではありません。また、必ずしも原資料の趣旨をすべて反映した内容になっていない場合があります。